

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 1年 11月 5日

公表: 令和 2年 3月 13日

事業所名: ハピネス国際児童発達支援

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0		
	② 職員の配置数は適切である	7	0		
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切にされている	7	0	キッチンの入口に危険箇所だとわかるように赤いテープを貼っており、必要に応じてその都度指導している	バリアフリーについては車いす利用の子どもも受け入れ可能できるよう今後配慮が必要である
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	日々の掃除を心掛け、玩具の消毒も行っている	
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	7	0	毎月の職員会議にて意見を出し合っている	改善提案用紙の提出を心掛ける
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0		
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0		
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	0		
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	毎月の職員会議での勉強会、公的な研修にも参加している	公的研修の参加者は会議等で報告し、全員が周知できるようにする
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	相談支援専門員のケアプランを基に計画を作成している	段階を踏んで達成目標に向けた支援計画を作成していく
	⑪ 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0		
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	子どもに必要なことを考えて支援している	
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0		
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	子どもの姿について伝えあい案については見たりして確認している	集中力を養う活動やコミュニケーション能力の向上を図るような活動プログラムを取り入れていきたい
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	定期的に新しい玩具や教材等を取り入れている	様々な年代の子どもに適した知育玩具等を導入する
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0	学習等個別なもの、遊び等集団で行うものなど時間帯で分けたり計画している	集団活動を通じてコミュニケーション能力の向上を目指す
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	子どもの状況をネームプレートで表示している	全体での申し送りにて、全職員で確認し不在職員も把握できるように申し送りノート等を活用していく
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	気づいたことは、その都度、又は後で連絡している	全職員メモに書き留める事を習慣化していく
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	リズム等にあつたこと等記入し確認できるようにしている	
	⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	子どもの育ちを話し合い適切かどうか話し合ったりしている	



関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	7	0			
	㉒ 母子保健や子ども子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	0			
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7	0		アセスメント、モニタリングを行う際に関係機関の情報提供をお願いし確認している。	
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもと主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	0			
	㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0		必要なこと、子どもの姿等伝えてもらっている	
	㉖ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0		学校での様子や、支援方法の相談など情報共有している	
	㉗ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	0		研修会に参加した職員は後日勉強会にて研修内容を報告し全職員周知し全体のスキルアップに繋げる	
	㉘ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	0			
	㉙ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	0	7		会議等の情報収集を行い積極的に参加できるようにしていきたい	
	㉚ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0		必要に応じて伝え合い共通理解に努めている	
	㉛ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	7	0		ペアレントトレーニングの研修会で学んだことを取り入れた支援を行っている	
保護者への説明責任等	㉜ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0			
	㉝ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0			
	㉞ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0		あればその都度対応している	
	㉟ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	0		交流の場を設けている	
	㊱ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0		直ぐに連絡を取れるようにしている	
	㊲ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0		活用の様子など写真を用いての会報を発行している	
	㊳ 個人情報の取扱いに十分注意している	7	0		個人情報保護について勉強会にて職員が周知している	
	㊴ 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0		送迎時に伝えたり、聞き受け止めている	
	㊵ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	7		子どもの適応行動等を配慮し現在行っていないが地域に開かれた事業を目指したい	
	非常時等の対応	㊶ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0		保護者に周知していただく必要がある
		㊷ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0		年2回、避難ルートを変更し、訓練を行っている
㊸ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		7	0		アセスメント時に予防接種の確認、平熱の状況も確認するようにしていく	
㊹ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		7	0		アセスメントにて食物アレルギーの有無、医師の指示の有無について確認している。	
㊺ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		7	0		勉強会にてヒヤリハット検証を実施している	
㊻ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		7	0			
㊼ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		7	0		解除までの経過観察・再検討記録も持っている。	

【事業所における自己評価集計結果グラフ】

